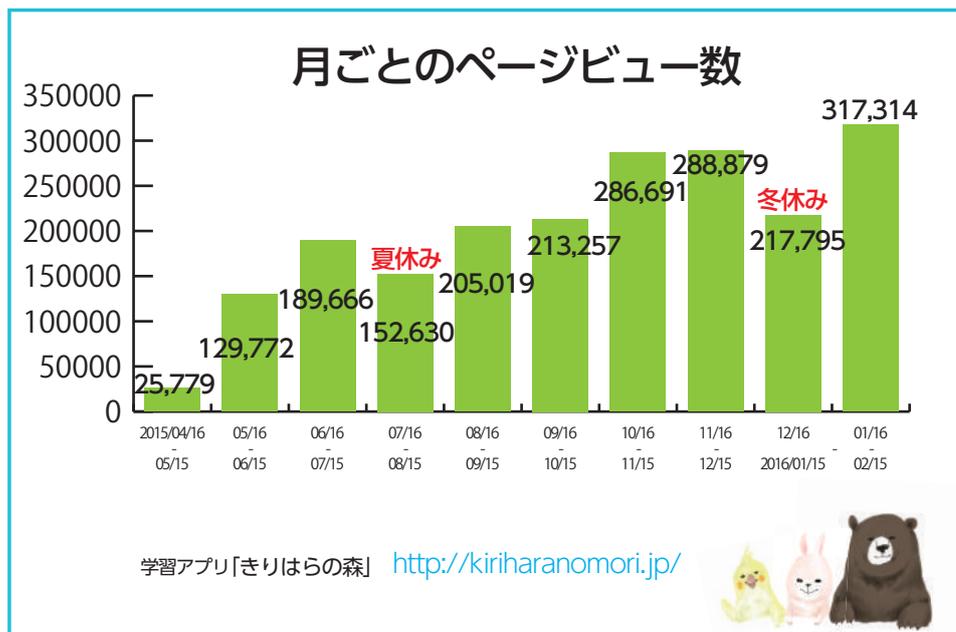




## 学習アプリってどのくらい使われてるの？



無料学習アプリ「きりはらの森」リリースより1年が経ち、おかげさまで**4万ダウンロード**を突破しました。では、実際どのくらいの方が見ているのか調べたところ、現時点では、毎月30万ページビュー（何らかの教材のページまで見ていること）を超えており、日ごとのページビューも、毎日ほぼ1万を超えていることがわかりました。夏休みや冬休みなど長期休暇のときには極端に減ることからも、逆に言えば、普段はかなりまめに見ていることがわかります。

教材別に見ると、英単語、英文法・語法、古文単語、現代文単語、漢字などがベスト10に入っており、漢文句形なども高い割合で見られています。機能としては、フラッシュカードや一問一答だけでなく、英語の総合問題集の音声元としても使用されています。CDを聞くことが難しい昨今、音声ツールとしても利用されているようです。また、最も多いのがスマートフォンからの閲覧ということも判明しています。生徒にとって身近なスマートフォンを使った学習ツールの一つとして、徐々に定着しつつあるのかもしれません。

## 漱石散歩①

今年没後100年を迎える夏目漱石ゆかりの地を訪ねます。



### 誕生の地の碑（東京都新宿区）

地下鉄東西線の早稲田駅すぐ近くにあります。漱石は、この地（今の東京都新宿区喜久井町）で生まれました。

このあたりは、漱石の父が命名したと言われる「夏目坂」や、漱石山房があった「漱石公園」など、漱石ゆかりの地が多くあるエリアです。





# 英文校閲者のひとりごと①

桐原書店の英文校閲担当者（アメリカ出身、在日歴長め）が日本で感じたちょっとしたことをつぶやきます。

## The Search for the True “Dry Curry”

For a foreigner, part of the pleasure of living in Japan is experiencing the cuisine known as “Yoshoku,” or Western Food, though it is kind of different from what people in the “West” know. Yoshoku seems to have had its heyday in the period fondly remembered as the “good old Showa days.” Fortunately for me, I got to experience the tail-end of this gourmet trend in the mid-1990s, when Kiri-hara Shoten was still located in Koenji, in Tokyo’s Suginami Ward. Koenji was home to a large number of these so-called yoshoku restaurants, though sadly, their numbers have dwindled.



自身で描いた高円寺の風景

One of yoshoku’s signature dishes is “dry curry.” However, sometime in the last 15 years they changed the definition of “dry curry.” ……

 To be continued in the May issue

## 日本語訳 本物の“ドライカレー”を求めて



外国人にとって日本で暮らす中での楽しみのひとつは「洋食」として知られている食事、すなわち西洋風の食事を味わうことです。とは言っても、その食事は「西洋」の人たちが知っているようなものとは少し異なります。洋食は、「古きよき昭和の時代」として懐かしく思い出される時代に最盛期を迎えたように思われます。私にとって幸いなことに、桐原書店がまだ東京の杉並区高円寺にあった1990年代の中頃に、この洋食ブームの最後の余韻を経験することができました。高円寺はそうしたいわゆる「洋食屋」が数多く軒を連ねていたのですが、残念なことにその数はだんだんと減ってきています。

洋食を代表する料理のひとつが「ドライカレー」です。ところが、この15年くらいでいつの間にか「ドライカレー」の定義が変わってしまいました。……

 第4号（5月）へ続く

